

公益社団法人日本動物学会 2024 年度第五回理事会 議事録

1. 開催された日時：2025 年 6 月 11 日（水）13:00～16:00

2. 開催された場所：

<https://us06web.zoom.us/j/89123321609?pwd=RwZ6zPvJE0LLTRMp0oCFwt0ZZobKAM.1>

（Zoom によるオンラインミーティング）

ミーティング ID: 891 2332 1609

パスコード: 103251

3. 理事総数及び定足数

総数 21 名 定足数 11 名

4. 出席役員

（理事出席）勝 義直、小川宏人、熊野 岳、渡邊明彦、深津武馬、田中幹子、伊藤悦朗、
三浦 徹、和田 洋、吉田 学、阿部秀樹、東城幸治、小柳光正、志賀向子、
植木龍也、岡田二郎、山脇兆史、小柴和子、吉田 薫

（理事欠席）浮穴和義、佐倉 緑

（監事出席）大島範子

（監事欠席）田島節子

理事出席者 19 名、監事 1 名の出席を得て、理事会は成立となった。議長は、志賀向子理事。
議事録署名人は、定款 35 条 2 項により、会長、大島範子監事。

5. 報告事項

① Zoological Science 編集主幹報告（兵藤 ZS 主幹）

- 予定どおり 2024 年度 41 巻は第 1～6 号、2025 年度 42 巻は 第 3 号までが出版され、
掲載論文数は昨年と同様の数で推移している。
- 分野別内訳については、これまでと同様、現代動物学の主要な分野である
Endocrinology, Developmental Biology, Physiology の論文が少ない。またそれに対する
対策としてこれらの分野の特集号を 2024～2026 年の第 1 号で計画している。また、
Ecology 分野の投稿が増えてきている。
- 国別受理数はほとんどが日本国で、それ以外はアジアからの投稿が多い。
- 投稿論文の採否決定までの日数は少しづつ伸びてきているが、その理由は査読者の決
定に時間がかかっていること、投稿数の推移も例年どおりである。
- 今後 subscribe to open（無料での Open access は 2027 年から）に参加するので、それ
を機に変化することが期待される。

② 議事録の回覧

2024 年度第 4 回理事会の議事録（資料 1）、および川口賞に関する 2025 年 3 月 29 日の通信理事会の議事録（資料 2）が回覧された。

③ 会長報告（志賀会長）

- 動物学会における個人情報取扱いポリシーに関して、役員会で試案を検討したい。
- 代議員制の導入について、本日の理事会から議論をスタートしたい（審議事項その他の項目①を参照）。
- 2028 年大会の開催地についてローテーションどおり近畿支部に依頼し、同意が得られたので、予定どおり近畿支部での開催を決定した。
- 2029 年以降の大会について、動物学会の創立 150 周年および第 100 記念大会が関連するので、ローテーションどおり行うか議論したい（審議事項その他の項目②を参照）。

④ 会計報告（佐倉会計理事（代読：吉田庶務））

- 2025 年度支部活動費について、例年どおり昨年度の支部会費納入額を予算額とし、2023 年度の決算額が 15 万円を下回る支部については本部からの補助を加えて 15 万円として、資料 3 の通り決定したことが報告された。支部活動費は 7 月に各支部の口座に送金予定である。
- Zoological Science 発行後 2 年経過した論文掲載手数料の未収金について、今回は審議対象となる未収金はなかった。

⑤ 庶務報告（吉田庶務）

- 学会賞等選考委員の交代について、メール審議による理事会を 2025 年 2 月 28 日に提案し、3 月 3 日に承認された。
- 日本学術会議法案について、メール審議による理事会を 2025 年 4 月 30 日に提案し、5 月 1 日に承認された。
- 5 月末時点の会員数は新規入会者数 288 名、総会員数 2118 名であった。昨年同時期における新規入会者数 211 名、総会員数 2,029 名だったので、わずかだが増加している。

⑥ Zoological Letters 編集長報告（倉谷 ZL 編集長（代読：吉田庶務））

- 2023 年のインパクト・ファクター 1.7、5 年間 IF は 2.4（2022 年をピークに下降傾向）。2024 年に頻繁にダウンロードされた論文の多くは 2020 年以前に発表されたものが多い。
- 投稿から受理までの平均は 118 日。投稿から決定されるまでの時間は長くなる傾向にある。改善したい。
- 2024 年の受理論文は 21 本、2025 年は 5 月末の時点で 5 本。受理率は 35%。過去数年間で、査読なし却下率が高まる傾向にある。

- 2023 年の投稿数は極めて高かった（108 本）が、2024 年は 58 本に減少し、2025 年は 5 月末の時点で 11 本しかないので、憂慮すべき事態と考える。ただし、2023 年にはエジプトからの戦略的投稿がかなりあり、それが 2024 年から緩和されたので実質的投稿数にはこれほどの差はないとの見方もできるが、2022 年には 53 本の投稿があったので、減少傾向は明らかである。年に 20 数本の論文の掲載を目標にして、より多くの投稿数を得るため、動物学会員からのより一層の投稿をお願いしたい。
 - 原著論文の投稿がほとんどで、レビュー論文の投稿は非常に少ない。
 - 国別では、日本、エジプト、中国、ポーランドからの投稿が多いが、日本、中国からの投稿が今年に入って大きな減少を示している。日本から投稿された論文の受理率が最も高い。
- ⑦ ScholAgora からの Zoological Science 購読料返還について（吉田庶務）
- ScholAgora を介した BioONE から返還される 2024 年分講読料収入は 10,583,141 円（1 \$ = 148.31 円）。アクセス数が増加し、昨年度よりも 11,000 ドル程度増収となったが、円高のためこの額となった。動物学会にとって大きな収入となっている。
- ⑧ 第 96 回大会（2025 年）名古屋大会準備状況報告（阿部理事）
- 2025 年 9 月 3 日(水)に理事会、各委員会、4 日(木)～6 日(土)に第 96 回大会を、ポートメッセなごや（愛知県名古屋市）を会場として開催する。
 - 5 月に正式な施設使用申込書を提出済。一般ポスター発表・企業展示・動物学ひろば・高校生ポスター発表などを実施する第二展示場については事前使用料を納付済。
 - 参加申込者数は演題登録〆切日（6 月 3 日）時点で 761 名（一般 451 名、学生 310 名）。一般発表演題数は〆切日時点で 495 題、大会 2 日目午後～3 日目にすべてポスター発表で実施する。公募シンポジウム・関連集会は合計 21 企画（121 演題）が開催される見込みである。
 - 6 月 3 日時点で参加費収入 439 万円、懇親会収入 341 万 7 千円（440 人参加予定）、企業協賛金 277 万円、自治体・財団などからの助成金 138 万円を得ている。
 - 研究室配属されていない学部学生の一般ポスター発表演題への申込みがあったが（発表者は入会手続済），前例がなかったため「小中高生の入会と発表に関する指針」を参考にしつつ大会実行委員会内で議論した。剽窃の防止や動物実験許諾、安全面の担保のため、“発表者と同じ学科に所属する教員がスポンサーとなり、その氏名がポスター中に表示されていること”を条件として、発表を認めることとした。
- ⑨ 第 97 回大会（2026 年）札幌大会準備状況報告（勝理事）
- 2026 年 9 月 3 日～5 日の会期で、北海道大学構内を会場として開催予定。
 - 現在大会ポスターを作成中（原案は作成済）。今年 8 月上旬の高校生による SSH 発表

会でアナウンスできるようにしたい。

- 公開促進費申請に向けて一般公開シンポジウムの演者を選定中。
- ⑩ 第 98 回大会（2027 年）関東大会準備状況報告（田中理事）
- 明治大学を会場として開催予定。懇親会場も内定済。
- ⑪ 各委員会報告
- 口頭での理事報告を希望する理事がいなかったため、各自次項⑫の理事活動報告において報告書の閲覧を行った。
- ⑫ 理事活動報告（2025 年 1 月～6 月）の確認
- すべての理事の活動報告については、業務執行報告として別紙（DropBox の資料として確認）の理事報告書の提出を受けており、その内容で理事の理事会における業務執行報告とする旨、出席理事全員が了承した。
- 勝義直、小川宏人、熊野岳、渡邊明彦、深津武馬、田中幹子、伊藤悦朗、和田洋、吉田学、三浦徹、阿部秀樹、東城幸治、小柳光正、志賀向子、植木龍也、浮穴和義、岡田二郎、山脇兆史、小柴和子、佐倉縁、吉田薰
- ⑬ その他
- 2028 年大会を実施する近畿支部代表の小柳理事から、大会開催に向けて挨拶があった。

6. 審議事項

第一号議案 2025 年度 Zoological Science Award(論文賞)について（兵藤 ZS 主幹）

2025 年 2 月 28 日に Zoological Science の Associate Editor および Advisory Board Member に、2024 年発行 Vol. 41 に掲載された原著論文から受賞候補論文 5 編以内の推薦を依頼し、30 論文が推薦された。この候補論文から Editor-in-Chief および Associate Editor で、審議を行った結果、以下の 5 論文を授賞候補として理事会に推薦する旨の報告があった。

Sugiura et al., 41 (2): 167-176. (分野 Developmental Biology)

Goto et al., 41 (3): 302-313. (分野 Reproductive Biology)

Sasakura et al., 41 (4): 363-376. (分野 Diversity and Evolution)

Priambodo et al., 41 (5): 424-429. (分野 Ecology)

Ando, et al., 41 (6): 557-563. (分野 Physiology)

1 件目の推薦理由内の使用動物種の和名について訂正が求められ、修正の上承認された。

第二号議案 2025 年度日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞について（日下部選考委員長）

同賞について 11 名の応募があり、選考委員会での審議の結果、丸岡奈津美 会員（宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター・日本学術振興会特別研究員 PD）と坂爪明日香 会員（お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所・特別研究員）の 2 名を受賞候補者として理事会に推薦する旨の報告があり、これが承認された。

第三号議案 2025 年度成茂動物科学振興賞について（稻葉選考委員長）

同賞について 1 名の応募があり、選考委員会での議論の結果、足立晴彦会員（慶應義塾大学先端生命科学研究所・特任助教）を受賞候補者として理事会に推薦する旨の報告があり、これが承認された。なお、複数の審査委員から研究内容記述欄が少ないのでないかという指摘があったことが報告され、今後同賞の応募書類の様式を変更する方向で検討していくことが了承された。

第四号議案 2025 年度動物学教育賞について（稻葉選考委員長）

同賞について 1 名の個人と 1 団体の推薦があり、選考委員会での議論の結果、公益財団法人名古屋みなど振興財団を受賞候補者として理事会に推薦する旨の報告があり、これが承認された。

第五号議案 2025 年度日本動物学会奨励賞について（稻葉選考委員長）

同賞について 11 名の応募があり、選考委員会での議論の結果、城倉 圭 会員（基礎生物学研究所・若手研究者雇用特別研究員）、山本遼介 会員（大阪大学大学院理学研究科・講師）、横井佐織 会員（北海道大学大学院薬学研究科・助教）の 3 名を受賞候補者として理事会に推薦する旨の報告があり、これが承認された。

第六号議案 2025 年度日本動物学会賞について（稻葉選考委員長）

同賞について 11 名の応募があり、選考委員会での議論の結果、成瀬 清 会員（自然科学研究機構基礎生物学研究所・特任教授）、兵藤 晋 会員（東京大学大気海洋研究所・教授）の 2 名を受賞候補者として理事会に推薦する旨の報告があり、これが承認された。なお、推薦理由のうち、学会運営活動に関する記載は相応しくないのでないかという指摘があり、削除されることになった。

第七号議案 2025 年度茗原眞路子研究奨励助成金について（寺北選考委員長）

同賞について 25 名の応募があり、選考委員会での議論の結果、土田 華鈴 会員（京都大学・特定助教）、堀 沙耶香 会員（奈良女子大学・准教授）、立石 康介 会員（関西学院大学・助教）の 3 名を受賞候補者として理事会に推薦する旨の報告があり、これが承認された。また、審査にあたって、同助成金の支給規定（「応募する年度（通常の会計年度）に外部資金を得ていない方を対象とする」）の意味するところを確認したことが報告され

た（第八号議案に関連）。

第八号議案 茗原眞路子研究奨励助成金のホームページ文言改定について（伊藤理事）（資料4）

当助成金の、“真の意味で研究資金のない研究者を支援する”という主旨をより明確にするため、学会ホームページでの文言を「重要な基礎生物学的な研究を計画・実施されている研究者で、応募する年度（通常の会計年度）に研究代表者・分担者として何れの外部資金も得ていない方を対象とします。」（下線太字部分）と変更したいという提案があり、これが承認された。なお、規定や募集要項にはこのような記載はない。また、他の助成金を応募中でも応募でき、その採否については追跡して調査しないことを確認した。

第九号議案 2025年度感謝状について（志賀会長）

5名の会員の推薦人から浜野一郎氏（有限会社浜野顕微鏡・代表取締役）を感謝状の候補者として推薦状が会長に提出された旨が報告され、賛成多数で承認された。

第十号議案 2025年度名誉会員について（志賀会長）

吉田学理事より稻葉一男会員（筑波大学下田臨海実験センター・教授）を名誉会員の候補者として推薦書が会長に提出された旨が報告され、賛成多数で承認された。なお、稻葉会員はまだ現役の研究者だが、現役会員が名誉会員となった例はこれまでにもあることが確認された。

第十一号議案 2025年度事業計画案について（吉田庶務）（資料5）

定期社員総会の開催、学術大会の開催、学術誌（ZS, ZL）の刊行、ニュースの発行と広報活動の促進、Zoo Diversity Web の構築、研究の表彰（各種学会関連賞の授与）、研究の助成（茗原助成の継続）、理事および各種委員会の活動、各支部の活動を継続することが提案され、承認された。

第十二号議案 2025年度予算案について（佐倉会計理事（代読：吉田庶務））（資料6）

2025年度事業計画に基づいて作成された収支予算書（案）が提案された。なお、動物学会は昨年度より消費税を納税しており、昨年度は約36万円を納税している。今回の予算案には事業計画に基づいて40万円を租税公課として計上した。また、本学会は2025年度に資金調達および設備投資の見込みはないことも合わせて説明され、収支予算書・資金調達および設備投資の見込みが承認された。

その他

■ 成茂動物科学振興賞の応募用紙のフォームについて

2025 年度の選考過程で、候補者の応募書類には、選考規定にある「特に実験系、解析系を独自に開発することで、先端的かつ国際的な動物学研究を展開している」ことが十分述べられていないのではないかという意見があった。しかし、それは応募フォームの記載欄が狭いためである可能性があるため、その懸念を排除するため、今後十分に研究内容を説明できるように、フォームを賞担当理事と本部で検討し、次回提案したい。

■ 代議員制の導入について

代議員制の導入について、その背景と利点と欠点、他の学会での動きと代議員数、導入する場合のスケジュールが説明された。なお、動物学会が一般社団法人の時期には代議員制がとられており、代議員数は 30 会員に 1 名の割合であった。「導入には賛成するが、学生会員の意見を反映できるような工夫が必要では」、「学生会員にも被選挙権を持たせるべき」、「支部委員が代議員を兼ねて良いのでは」、「中部地区、九州地区では支部委員が選挙で選出されていないので、代議員を兼ねるのは問題がある」等の意見が出た。全体として代議員制導入に反対する意見はないので、導入に向けてどのように代議員選挙を行うかを検討していくこととなった。

■ 2029 年の動物学会の創立 150 周年記念第 100 回大会について

創立 100 周年の際には、東大本郷キャンパスで記念大会と記念事業（式典、展示、記念公開講演等）が行われた。これにならい、創立 150 周年記念大会はローテーションを変えて（本来なら中四国支部）関東支部（東大）で行うかについて、意見交換が行われた。「中四国支部で行うのは辞退したい」、「2027 年度大会開催に東大の先生は関与しないので、東大の先生が実行するのは難しくないのでは」、「本郷キャンパスは大会をやるには施設規模が小さく、建物が分散するので難しい。駒場なら可能か？」、「記念式典のみなら本郷でも可能」、「本郷に動物学会関連の先生がほとんどいない」、「創立 150 周年記念事業として何をやるのか」、「記念式典のみ本部主導で行えば中四国支部でも可能では」等の意見が出た。最終的には東大、本郷キャンパスで実施するかどうかはさておき、深津理事を中心に関東支部で引き受ける方向となった。

次回（2025 年度第 1 回理事会）について

2025 年 8 月 18 日（月）、8 月 19 日（火）のいずれかに開催する予定である。日程調整は事務局から連絡するが、日程の確保をお願いしたい。

監事からの御意見（大島幹事）

「重要な審議が行われ、熱の入った理事会でした。会員数もやや増加傾向なのは大変喜ばしいと思います。このまま学会が活性化していくことを祈っています。」

2025年6月11日

上記の内容で相違ないことを証するため、ここに記名押印をする。

会長　志賀　向子

監事　大島　範子

1. 掲載論文数、ページ数

2024 年

巻号	ページ	ページ 数	Review Article	Original Article	その他
Vol41 No1	1-139	139	7	7	1 Overview, 1 Essay
Vol41 No2	141-243	103	1	9	
Vol41 No3	245-328	84		10	
Vol41 No4	329-415	87		9	
Vol41 No5	417-488	72		8	
Vol41 No6	489-569	81		10	
計		566	8	53	

Original Article 平均 8.8 ページ

※Vol. 41, No. 1 は特集号 “Recent advances in endocrine and neuroendocrine systems” (Handling Editors: Kazuyoshi Ukena, Reiko Okada)

2025 年

巻号	ページ	ページ 数	Review Article	Original Article	その他
Vol42 No1	1-152	152	9	6	Overview 1
Vol42 No2	153-247	95		10	
Vol42 No3	249-341	93		10	

※Vol. 42, No. 1 は特集号 “Environmental Adaptation in Animals” (Guest Editors: Hideharu Numata, Yukako Hattori)

今後の特集号の予定

Vol. 43, No. 1 (2026) “Recent Advances in Evolutionary Developmental Biology”

2. 掲載 Original Articles の分野別内訳

2024 年【Vol. 41, No. 2-6】

Behavioral biology	2	Endocrinology	1	Phylogeny	5
Biochemistry	0	Genetics	0	Physiology	3
Cell biology	1	Immunology	0	Reproductive biology	2
Developmental biology	4	Molecular biology	2	Taxonomy	3
Diversity and evolution	9	Morphology	4		
Ecology	9	Neurobiology	1	total	46

※Vol. 41, No. 1 特集号 7 原稿は通常と異なる分野別で集計外

2025 年【Vol. 42, No. 2-3】

Behavioral biology	2	Endocrinology	0	Phylogeny	0
Biochemistry	0	Genetics	0	Physiology	3
Cell biology	0	Immunology	0	Reproductive biology	5
Developmental biology	0	Molecular biology	0	Taxonomy	2
Diversity and evolution	4	Morphology	0		
Ecology	4	Neurobiology	0	total	20

※Vol. 42, No. 1 特集号 6 原稿は通常と異なる分野別で集計外

3. 国別受理数、却下数

Country/Region	2024 年 1 月 1 日～12 月 31 日				2025 年 1 月 1 日～5 月 27 日			
	Accept	Reject	Total	Accept Ratio	Accept	Reject	Total	Accept Ratio
Algeria	0	1	1	0.00%				
Bangladesh	1	1	2	50.00%				
China	2	10	12	16.67%	1	3	4	25.00%
Czech Republic	1	0	1	100.00%				
Egypt	0	4	4	0.00%				
Germany	1	0	1	100.00%				
India	2	14	16	12.50%	0	1	1	0.00%
Japan	55	11	66	83.33%	17	4	21	80.95%
Korea (the Republic of)	0	2	2	0.00%				
Malaysia	0	1	1	0.00%				
Pakistan	0	1	1	0.00%	0	1	1	0.00%
Russian Federation					0	1	1	0.00%
Saudi Arabia					0	1	1	0.00%
Spain					1	0	1	100.00%
Sri Lanka	0	1	1	0.00%				
Switzerland	1	0	1	100.00%				
Taiwan	1	0	1	100.00%				
Thailand	0	2	2	0.00%	1	0	1	100.00%
Turkey	0	1	1	0.00%	0	1	1	0.00%
United States	1	1	2	50.00%				
Total	65	50	115	56.52%	20	12	32	62.50%

4. 分野別受理数・却下数

	2024 年 1 月 1 日～12 月 31 日				2025 年 1 月 1 日～5 月 27 日			
	Accept	Reject	Total	Accept Ratio	Accept	Reject	Total	Accept Ratio
Behavioral biology	6	3	9	66.7%	2	0	2	100.0%
Biochemistry	0	1	1	0.0%	0	0	0	#DIV/0!
Cell biology	1	3	4	25.0%	0	0	0	#DIV/0!
Developmental biology	3	0	3	100.0%	2	2	4	50.0%
Diversity and evolution	12	2	14	85.7%	6	3	9	66.7%
Ecology	10	9	19	52.6%	2	3	5	40.0%
Endocrinology	3	0	3	100.0%	0	0	0	#DIV/0!
Genetics	0	1	1	0.0%	0	0	0	#DIV/0!
Immunology	0	1	1	0.0%	0	1	1	0.0%
Molecular biology	2	2	4	50.0%	0	0	0	#DIV/0!
Morphology	3	4	7	42.9%	1	1	2	50.0%
Neurobiology	1	0	1	100.0%	0	0	0	#DIV/0!
Phylogeny	2	2	4	50.0%	1	0	1	100.0%
Physiology	12	2	14	85.7%	2	1	3	66.7%
Reproductive biology	2	7	9	22.2%	1	0	1	100.0%
Taxonomy	8	13	21	38.1%	3	1	4	75.0%
Total	65	50	115	56.5%	20	12	32	62.5%

5. 投稿された論文の採否決定までの日数

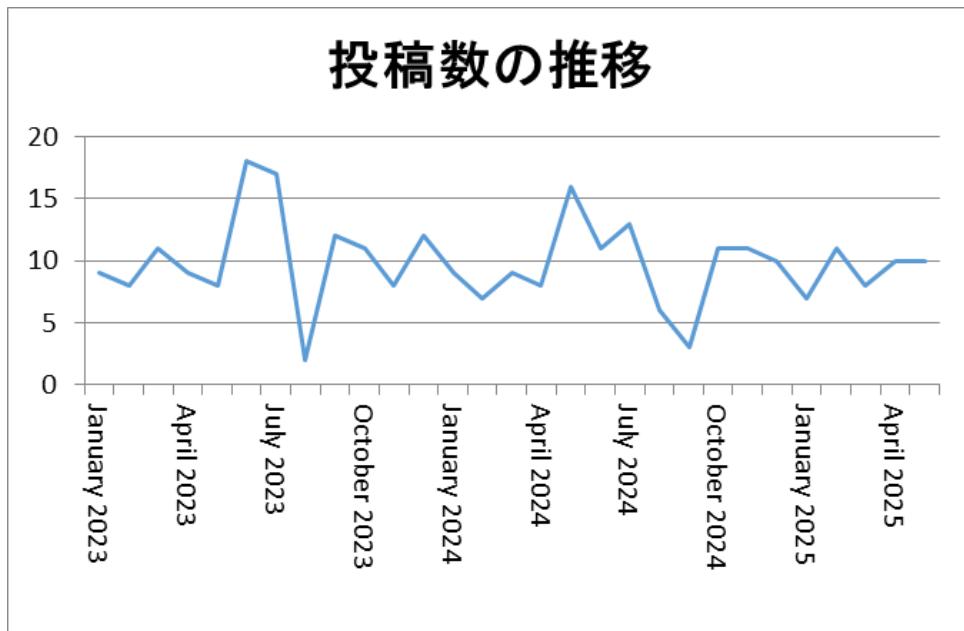
投稿から最初の決定日までの日数

最終決定日	全論文での平均	最終決定済みのみ
2023	27.70	27.53
2024	34.86	32.48
2025(1～5 月)	35.47	35.94

投稿から最終決定日までの日数(Original Articles)

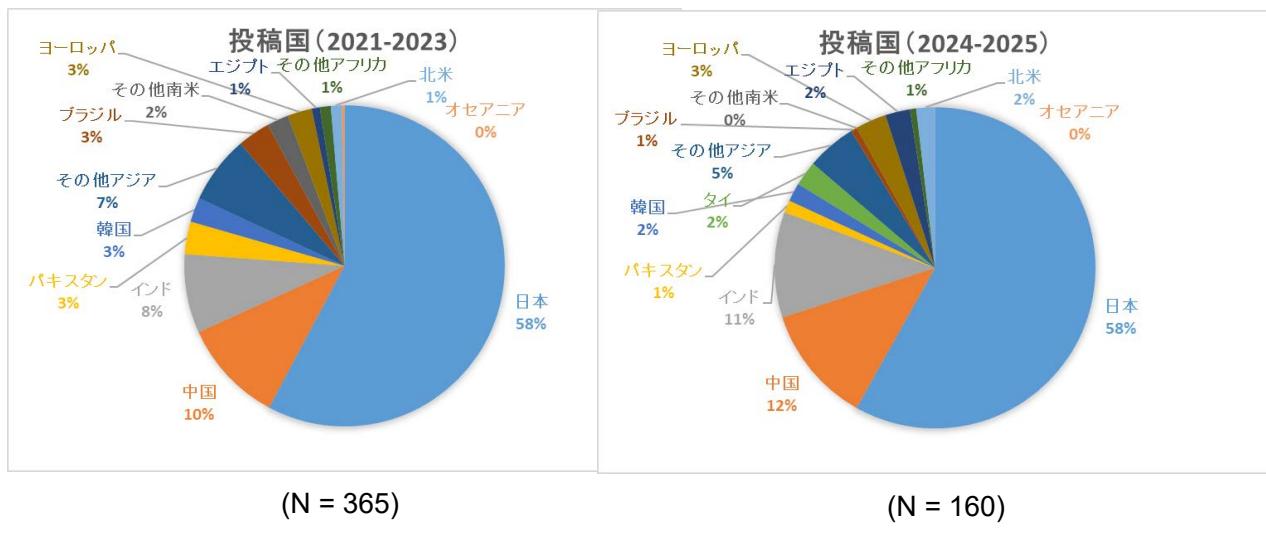
最終決定日	総数	受理数	却下数	受理率	平均日数	中央値
2023	105	53	52	50.48	71.50	48
2024	101	54	47	53.47	76.08	47
2025(1～5 月)	32	20	12	62.50	89.53	64

6. 新規投稿数の変化



年間受領数は
2023 年 125 編
2024 年 114 編
2025 年 46 編 (年間見込み 116 編)

7. 投稿国の変化



令和7年度（2025年度）支部活動費

支部	金額
北海道支部	150,000
東北支部	150,000
関東支部	488,000
中部支部	157,600
近畿支部	158,400
中国四国支部	164,000
九州支部	150,000

Zoological Letters 報告

1. 2023 年のインパクト・ファクター 1.7、5 年間 IF は 2.4 (2022 年をピークに下降傾向)。
2024 年に頻繁にダウンロードされた論文の多くは 2020 年以前に発表されたものが多い。
2. 投稿からアクセプトまでの平均は 118 日。投稿から決定されるまでの時間は長くなる傾向にある。改善したい。
3. 2024 年のアクセプト論文は 21, 2025 年は 5 月末の時点で 5 本。アクセプト率は 35%。
過去数年間で、査読なしリジェクト率が高まる傾向にある。
4. 投稿数: 2023 年の投稿数は極めて高かった (108) が、2024 年に減少し (58)、2025 年は 5 月末の時点で 11。これは憂慮すべき事態と考える。ただし、すでに報告したように、2023 年にはエジプトからの戦略的投稿がかなりあり、それが 2024 年から緩和されたので実質的投稿数にはこれほどの差はないとの見方もできる (とはいえ、2022 年には 53 の投稿があったので、減少傾向は否定すべくもない)。年に 20 数本の論文の掲載を目指にする以上、より多くの投稿数が望ましい。動物学会員からのより一層の投稿をお願いしたい。
5. 基本的に原著論文の投稿が大多数を占め、レビュー論文の投稿は非常に少ない。
6. 現在、日本、エジプト、中国、ポーランドからの投稿が多い。そのうち、日本、中国からの投稿が今年に入って大きな減少を示している。アクセプト率が最も高いのは日本から投稿されたもの。

あらためて、動物学会員からの論文投稿をお願いしたい。

2024 年度第 5 回理事会 理事職務報告 提出者 21 名 (敬称略)

氏名	職務
勝 義直	北海道支部長
小川 宏人	図書・出版
熊野 岳	東北支部長
渡邊 明彦	男女共同参画
深津 武馬	副会長
田中 幹子	関東支部長
伊藤 悅朗	賞等
和田 洋	教育
吉田 学	IT
三浦 徹	国際交流
阿部 秀樹	中部支部長
東城 幸治	ZDW
小柳 光正	近畿支部長
志賀 向子	会長
植木 龍也	中国四国支部長
浮穴 和義	広報
岡田 二郎	九州支部長／大会引き継ぎ
山脇 兆史	寄付
小柴和子	将来計画
佐倉緑	会計
吉田薰	庶務

日本動物学会北海道支部 活動報告 2025年1月～6月

報告：勝 義直（北海道支部・支部長）

水島 秀成（北海道支部・庶務幹事）

福富 又三郎（北海道支部・会計幹事）

2025年5月25日作成

1. 支部大会の開催について

第69回支部大会を以下のように開催した。

第69回日本動物学会北海道支部大会

日時：2025年3月22日（土）10:00～15:15

場所：北海道大学水産学部水産科学未来人材育成館

参加者：33名

内容：一般発表（9演題）、特別講演（西村俊哉 先生：北海道大学大学院水産科学研究院）、高校生発表（1演題）、総会

2. 支部役員会の開催について

第2回北海道支部役員会（メール会議）2025年3月10日（月）

- ・2023年度（2023年7月～2024年6月）の支部活動報告および支部会計報告
- ・これまでの支部活動の報告（第1回支部役員会と支部講演会について）
- ・2026年9月実施予定の本大会の準備状況説明と協力について
- ・2026年度からの北海道支部委員体制の見直しについて
- ・支部webサイト廃止と本部webサイトへの統合について

3. 支部講演会の開催について

第603回支部講演会

・日時：2025年2月7日（金）17:00～18:30

・場所：北海道大学 理学部5号館4階 5-407室

・演者：山口真二 博士（帝京大学薬学部 教授）

・演題：再生を促進する細胞の発見～ヤマトヒメミミズの再生モデルとしての有用性～

第604回支部講演会

・日時：2025年3月7日（金）17:00～18:30

・場所：北海道大学 理学部5号館4階 5-407室

- ・演者：渡邊 崇之 博士（総合研究大学院大学 統合進化科学研究センター 助教）
- ・演題：昆虫の脳・行動の性差はどのようにして生み出されるのか？
- ・～脳・神経回路の性分化メカニズムを進化生物学的視点から眺めてみる～

第 605 回支部講演会

- ・日時：2025年4月18日（金）17:00～18:30
- ・場所：北海道大学 理学部5号館8階 5-813室
- ・演者：小川 洋平 博士（Washington University in St. Louis）
- ・演題：5億年にわたる進化の過程で保存されたシス調節コード

第 606 回支部講演会

- ・日時：2025年5月7日（水）15:00～16:30
- ・場所：北海道大学 理学部5号館8階 5-813室
- ・演者：後藤 寛貴 博士（静岡大学理学部生物科学科）
- ・演題：クワガタムシにおける性的二型形質の発現機構とその多様性

以上

出版・図書委員会活動報告（2025年1月-6月）

- この期間中に出版・図書委員の交替／変更はなかった。
- これまで継続してきた、Springer Series “Diversity and Commonality in Animals” の継続刊行企画（Vol 4. Animal Behaviors（仮題）, Vol 5. Endocrine Systems in Animals（仮題））については、企画立案から10年以上が経過しているため再考し、新たな企画を立てるほか、学会員に企画を募集する計画である。

東北支部活動報告（2025年1～6月）

- 1) 動物学会本部HPの改訂に伴い、支部ホームページの移転作業を行った。本部HP内の東北支部のページを新たに作成した。また、4月16日に「令和7年度日本動物学会東北支部大会のご案内（第1報）」を掲載し、本部HPにも「お知らせ」として掲載されたことを確認した。
- 2) 「支部だよりNo.76」を3月26日（水）に東北支部の会員に配信し、7月26日（土）～7月27日（日）に2025年度東北支部大会（一般口演および高校生ポスター発表）と東北支部総会を東北大学青葉山キャンパスで開催すること（実行委員長：宮城教育大学・出口竜作会員）、「親子で楽しむ動物学」は高校生ポスター発表と同時開催を検討中であることを通知した。詳細については、6月中に「支部だよりNo.77」を配信して通知する。また、発表の申込締切は7月1日（火）を予定している。

以上

男女共同参画理事及び委員会活動報告（2025年1-6月）

1. 第96回日本動物学会 名古屋大会において、第25回男女共同参画懇談会「ワーク・ライフ・バランスを考える～機嫌よく研究に取り組みたい！～」を、キャリアパス小委員会と合同企画開催することになり、準備を進めている。
2. 男女共同参画学協会連絡会第23期総会、第2回運営委員会（2025年3月13日（木）Web会議）に男女共同参画委員5名が参加した。

副会長報告(2025年1月～6月)

報告者 副会長 深津武馬

2025年6月4日作成

(1) 本部役員間のミーティングならびに事務局のオンライン打ち合わせおよび事務局での対面打ち合わせに参加し、解決すべき所掌事項に対して意見を出し課題解決に寄与した。

(2) 財団からの選考委員候補者の推薦依頼に対し意見を出し、候補者を検討した。

(3) その他、会長、会計、庶務、ならびに各委員会の職務を補佐した。

以上

日本動物学会関東支部 2025年 1-6月 活動報告 田中幹子

1) 関東支部委員会の実施

日時：2025年3月13日（火）11:30～

会場：オンライン会議（Zoom）

出席者（敬称略）：田中、柴、長谷部、伊藤、深津、鈴木、川村、和田、二橋、坂田、加藤、小柴、沓掛、蓮沼、吉田薫、二階堂、石川、大杉、馬谷

報告事項：

- 支部長報告
- 2025年3月支部大会準備状況について（深津委員）

審議事項

- 2024年度支部総会資料について（庶務：柴、会計：蓮沼委員）資料
- 公開講演会（2025年夏）の準備状況について（二階堂委員）
- 支部委員選挙の名簿作成時期について（柴）

2) 関東支部第77回大会、支部総会の実施

日時：2025年3月15日（土）9:30-16:00

会場：産業技術総合研究所つくばセンター 共用講堂

大会実行委員：

大会実行委員長 深津武馬先生（産総研・生物プロセス）、沓掛磨也子先生（産総研・細胞分子工学）、二橋亮先生（産総研・生物プロセス）

主催：日本動物学会関東支部会

共催：ERATO 深津共生進化機構プロジェクト、学術変革領域(A)共進化表現型創発

大会プログラム

9:00- 受付開始

9:30- 開会の挨拶

第一部（9:30-11:30）

公開シンポジウム「動物の行動、生殖、発生にみる延長された表現型」の実施

佐藤拓哉先生（京都大学）

「寄生虫ハリガネムシによる行動操作の仕組みと自然生態系での役割」

春本敏之先生（京都大学/産総研）

「昆虫の性を操る微生物たち」

丹羽隆介先生（筑波大学）

「寄生蜂の寄生戦略の分子メカニズムと進化」

森山実先生（産総研）

「カメムシの保護色形成を支える腸内共生細菌」

総会 (11:30-12:00)

第二部 (13:00-16:00)

ポスターセッション

13:00-14:15 前半ポスターセッション

14:15-14:30 高校生演題「修了証」手渡し

14:30-15:45 後半ポスターセッション

15:45-16:00 ポスター優秀発表賞表彰式および閉会の挨拶

賞等担当理事活動報告：2025年1月から6月までの活動報告

伊藤 悅朗

1. 日本動物学会賞、日本動物学会奨励賞、日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞、日本動物学会動物学教育賞、成茂動物科学振興賞の募集を、3月31日まで行った。学会賞11件、奨励賞11件、女性研究者奨励 OM 賞 11件、動物学教育賞 2件、成茂動物科学振興賞 1件の応募があった。
 2. 山田科学振興財団は2月3日に締め切られ、14件の応募があった。その中から6名の推薦者を2月25日に決定した。
 3. 第65回（令和6年度）東レ科学技術研究助成金に、会員2名を推薦したが、どなたも選ばれなかった。2月17日
 4. 日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞選考委員を選出した。3月18日
 5. 茅原眞路子研究奨励助成選考委員を選出した。3月19日
 6. 茅原眞路子研究奨励助成の募集を4月1日から5月7日まで行った。25件の応募があった。
 7. 第22回日本学術振興会賞に対して、会員からの推薦依頼はなかった。3月17日
 8. 川口賞受賞者を募集し、3月3日締め切りで16件の応募があった。その中から2名を3月21日に決定した。
 9. 2025年度公益財団法人内藤記念科学振興財団に対して、4月1日に選考委員候補として2名（会長と副会長）を推薦した。
 10. 第16回日本学術振興会育志賞に対して、会員からの推薦依頼を4月17日から5月7日まで受け付けた。2名の応募があり、5月12日に1名の推薦を決めた。
- 以上。

公益社団法人日本動物学会 2025 年 1-6 月期活動報告書

報告者 教育担当理事 和田洋

2025 年 6 月 1 日作成

本年度活動計画の中心であった「各支部の支部大会を中心に高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動を実施すること」に関して、各支部で活動を行った。詳細は、各支部の報告参照のこと。

各支部で実施した活動の中から、実施にあたっての問題点を 9 月の委員会で持ち寄り、議論を行う。

IT 担当理事 活動報告（2025 年 1 月～6 月）

担当理事 吉田 学

1. 学会 HP のシステム管理を行った。
2. 学会支部の web サイトの本部サイトへ統合作業について、委託先である（株）ダイナックスと連携しつつ作業を行った。各支部にコンテンツの確認を行った後、4 月より正式に公開した。
3. 名古屋大会用の Web サイトについて、名古屋大会実行委委員会に構築および基本的な管理を委譲しつつ、システム管理を行った。
4. 名古屋大会実行委員会と、連携しながら、演題登録システム及び参加登録システムの構築を行い、試行テストを行った後に公開を開始した。公開後のサイトの管理は大会実行委員会に依頼した上で、システムを監理し、業者による修正が必要な案件については直接対応した。

国際交流委員会 活動報告 2025年1月-6月

2025.5.17.

国際交流委員会・委員長・担当理事

三浦徹（東京大学）

2025.03.28. 国際交流委員会の開催（オンラインにて）

議事次第

- ・ 今年度の委員の紹介（各支部の委員の先生方の自己紹介）
- ・ 長崎大会での国際シンポジウム報告
- ・ 名古屋大会での国際シンポジウムについて
- ・ 国際交流セミナーの提案について

【委員名簿】

支部	氏名	所属
担当理事、委員長	三浦 徹	東京大学 大学院理学系研究科 附属臨海実験所
北海道	竹内勇一	北海道大学 大学院理学研究院
東北	横井勇人	東北大学 農学研究科
関東	谷口俊介	筑波大学 下田臨海実験センター
中部	日下部誠	静岡大学 理学部
近畿	梅園良彦	兵庫県立大学
中国・四国	安齋 賢	岡山大学 学術研究院 環境生命自然科学研究域
九州	山崎博史	九州大学

【長崎大会での国際シンポジウム報告】

シンポジウムタイトル

Evolution of animal body plans and life cycles: Novel adaptations towards new environments

開催日時：2024年9月12日（木）18時より（シンポジウム S5）

オーガナイザー：小口晃平（東海大・生物）、三浦徹（東大・院理・臨海）

Kohei Oguchi (Tokai University), Toru Miura (The University of Tokyo)

シンポジウム主旨：

Tremendous diversity of body patterns is seen among metazoans, in which such morphologies have been acquired through evolutionary expansions into new environments. During the processes, animals have modified their life cycles, in association with the alteration

of developmental programs forming their phenotypes. For example, metamorphosis in insects is a typical case, in which drastic phenotypic changes are carried out during postembryonic development. Such developmental alterations are suggested to enable animals to expand into new environments, but the knowledge is largely biased only to specific animal lineages (e.g., insects). In most of the animal phyla, especially marine invertebrates, almost nothing is known about the detailed patterns of phenotypic changes and the underlying developmental mechanisms. In this symposium, therefore, each speaker introduces the cases of evolutionary consequences seen in various animal lineages. In these cases, we can see developmental modifications that have probably acquired through evolutionary processes in relation to the expansion into new environments.

登壇者の氏名と講演順（敬称略）

1. 乾直人（東大・院理・臨海）
2. 田中幹子（東工大・生命理工）
3. 小口晃平（東海大・生物）
4. Maria Teresa Aguado (Georg-August-Universität Göttingen, Germany) (海外招待講演者)

他の会場での多数のシンポジウムと並行しての開催であったため、聴衆の人数はそれほど多くは無かったが、どの講演に対しても聴衆から多数の活発な質疑が出て、動物進化に関する活発な議論がなされた。特に招待講演者である Aguado 博士のご講演は大変教務深く、聴衆も興奮して聞き入っている様子であった。

【名古屋大会での国際シンポジウム企画】

九州支部委員の山崎博史先生（九州大学）より会員からのシンポ提案の報告。

琉球大学の池田先生より企画提案が蟻、国際交流委員会の全会一致で採択が可決された。

- ・シンポタイトル：Reconsideration of smartness in animals: its similarity and divergence
- ・オーガナイザー：池田 譲（琉球大学）
- ・概要

Beside human, we know many examples of smart animals such as chimpanzees and crows that exhibit advanced learning abilities both in nature and in laboratory. One of shared features of these smart animals is large brain and sophisticated senses. Today such examples for smartness are getting expansion to other phylum even to invertebrates. Coelopid cephalopods (octopus, cuttlefish and squid) are such an exceptional invertebrate facilitated with megalobrain and lens eyes, performing extraordinary intelligence and unique behavior such seen in dynamic camouflage. Yes, they are smarter than we usually imagine. So, are

cephalopods are human-like animals? Or, are they another mammals or birds? When we think about smartness and cognition of animals, we should look at their evolutionary history and life span that determine the present form of each species. In this symposium, we will focus on cephalopods as smart animal, and compare them with other animals including primates, birds and arthropods, by which we try to reconsider what smartness is among animals.

・予定講演者

基調講演者: Alex Schnell (National Geographic/University of Cambridge)

講演者： 高野 裕二（人間環境大学）

山崎 由美子（新潟医療福祉大学）

森山 徹（信州大学）

川島 董（琉球大学）

・想定参加人数：100-150名

・希望時間枠：2時間半（大会2日目午後[17:00-19:30]）

【国際交流セミナー】

こちらは特に提案がなかったため、開催の企画は現時点では無し。

積極的な企画提案が無い限りは（委員や会員の大きな負担となるため）無理に開催しないことを委員の間で了承した。

令和 7 年 6 月 11 日

令和 7 年 1 月—7 月、日本動物学会中部支部活動報告

阿部 秀樹

1) 令和 6 年度 日本動物学会中部支部大会を福井大学文京キャンパスで令和 6 年 12 月 7 日—8 日に開催した。大学院生・大学生の部門では 18 題の口頭発表、6 題のポスター発表、高校生・高専生の部門では 4 題の口頭発表(1 題のオンライン発表含む)、16 題のポスター発表が行われた。参加者は現地会場が 112 名、オンラインが 1 名参加した。

日時：令和 6 年 12 月 7 日(土)～8 日(日)

会場：福井大学文京キャンパス総合研究棟 I (福井県福井市文京 3 丁目 9-1)

(https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/data/campus/campus_bunkyo/)

大会参加費：高校生・高専生・大学生・大学院生は無料、一般は 1000 円

12 月 7 日

公開シンポジウム「脊椎動物の進化と起源」と題し、3 名の先生方に講演頂いた。

浦田 慎先生(能登里海教育研究所)：「脊椎動物に至るボディープラインの成り立ち」

足立 礼孝先生(東京科学大学)：「Hox コードを超えた頭部骨格筋の発生」

Cantas Alev 先生(京都大学)：「Towards reconstructing vertebrate axial development *in vitro*」

会員と高校生・高専生などを中心としたポスター発表と口頭発表を行った。

夕刻に支部会議を開催した。

12 月 8 日

会員を中心とした口頭発表を行った。

2) 第 96 回日本動物学会名古屋大会(2025 年 9 月)の準備状況

会期：令和 7 年 9 月 3 日(水：理事会・委員会)～6 日(土)

会場：ポートメッセなごや

会場予約について

5 月に正式な施設使用申込書を提出せず。一般ポスター発表・企業展示・動物学ひろば・高校生ポスター発表などを実施する第二展示場については事前使用料を納付済。

参加登録・演題登録状況

・ 参加申込数は演題登録〆切(6/3)の時点で 761 名(一般 451 名、学生 310 名)

・ 一般発表は大会 2 日目午後～3 日目にすべてポスターで実施する。

演題登録〆切時点で 495 題の応募があった。

・ 公募シンポジウム・関連集会は合計 21 企画(121 演題)が開催される見込み。

- ・ 予算計画の詳細については学会予算報告に譲るが、6/3 の時点で参加費収入 439 万円、懇親会収入 341.7 万円（440 人参加予定）、企業協賛金 277 万円、自治体・財団などからの助成金 138 万円を得ている。
- ・ （6/9 追記：名古屋大会では「研究室配属されていない、学部学生の一般ポスター発表演題への申込み」という前例がない申込みがあり、大会内で「小中高生の入会と発表に関する指針」を参考にしつつ議論の結果、“発表者と同じ学科に所属する教員がスポンサーとなり、その氏名がポスター中に表示されていること”という条件を附して、発表を認めることとしました。）

3) 支部独自での寄付事業

従来、夏休みの課題研究を支援する目的で、中部支部の寄付委員を中心にして夏休み時期にクラウドファンディング（プレパラートプロジェクト）を実施していたが、今年は9月の動物学会名古屋大会の一般公開会場にて、寄付活動を実施する予定で準備を進めている。

東城 幸治

ZooDiversity Web の維持更新

ZDW は ZM, ZA のアーカイブを含め、ひとまずは完成した状態にあるが、ZS,

ZL については新たに出版される論文情報を更新が必要となる。また、不具合

が確認された際には修正を順次行う必要がある。

- ・ ZS, ZL の論文についてデータベースを嶋田会員が作成
- ・ Dynax がデータを更新（同社とは年間契約）
- ・ Virtual Issue の編集（原稿を Dynax が ZDW にアップ）
- ・ ZDW のデータ修正、改善（作業内容を決めて Dynax に依頼）
- ・ ZDW からリンクしたサイト（What's ZDW?, How to Use (Video), ZDW でできること）の維持管理
- ・ アクセス状況の確認

ZDW 委員会（メール審議）

ZDW 委員会立ち上げ当初より、委員会の中心メンバーとして参画いただき、学会各誌の学名抽出作業等、ZDW に甚大なる貢献を果たしてこられた嶋田大輔会員が 2024 年 11 月 19 日に急逝され、嶋田会員が中心的に担当されてきたデータベース作成作業の引き継ぎについて、残された委員間で電子メールにて議論した。

2024 年度内は、田中正敦会員（慶應義塾大学）に引き継いでいただき、2025 年 5 月以降は、加藤大河会員（京都大学）と小野鈴太郎会員（北海道大学）に、それぞれ ZS の偶数号と ZL の偶数巻、ZS の奇数号と ZL の奇数巻を担当する形で担当いただいている。

近畿支部 活動報告 2025年1~6月期

理事・近畿支部長 小柳光正

2025年5月27日 作成

2025年5月10日（土）に、神戸大学理学部（神戸市灘区）において動物学会近畿支部の支部委員会と公開講演会を開催した。その支部委員会での審議において理事・支部長としての職務を遂行した。

1. 支部委員会

2025年5月10日（土） 11:00～12:15

会場：神戸大学理学部C棟1階 C118号室

報告及び議題：

1 2024年秋季支部委員会の議事録承認

2 支部長報告・理事会報告

（1）2024年度第4回理事会の報告を小柳が行った。

3 会計報告

（1）近畿支部収支中間報告（令和6年7月1日～令和7年5月2日）の報告が行われ、適正であると判断された。

4 近畿支部の今後の活動予定

・2025年 秋の高校生発表会：大阪公立大学

　世話人：後藤慎介 会員（大阪公立大学）

・2026年 春の講演会：長浜バイオ大学

　世話人：齋藤茂 会員（長浜バイオ大学）

・2026年 秋の高校生発表会：京都大学

　世話人：佐藤ゆたか 会員・山下高廣 会員（京都大学）

5 その他：次の近畿地区で開催される年次大会の候補地について議論した。

2. 2025 年春の公開講演会

以下の通り、近畿支部公開講演会を実施した。

日時：2025 年 5 月 10 日（土）13：30 ~ 14：30

世話人：佐倉緑 会員・塚本寿夫 会員（神戸大学）

参加人数：35 人

会場：神戸大学瀧川学術交流会館大会議室

講師：佐藤拓哉 博士（京都大学・生態学研究センター）

演題：『「延長された表現型」の仕組みとその進化：ハリガネムシは如何にカマキリを入水させるのか？』

以上

会長活動報告（2025年1月～5月）

報告者 会長 志賀向子

会長活動報告

- ・ホームページ会長挨拶を作成し掲載依頼をした（12月25日）
- ・【生科連】次期動物愛護管理法改正に関する要望書について生科連委員で議論し、賛同することとした（1月10日）
- ・NHK科学文化部に「動物学雑誌」の合本（1937～9年頃のもの）貸し出しを許可することとした。
- ・2025年度山田科学振興財団推薦を行った（2月3日～2月23日）
- ・OM賞と茗原助成の外部審査委員案を作成した（2月4日～3月18日）
- ・【生科連】生物科学連合定例会意義に出席した（4月30日）
- ・堀場カレンダーの抽選を行った（2月19～20日）
- ・学会賞等選考委員の交代について理事会審議を行った。（2月28日～3月3日）
- ・動物学会一般の方の入会について役員で審議し、認めることとした。（3月12日）
- ・会員より法人・団体としての個人情報の取り扱いについて質問を受け、動物学会の個人情報取り扱いポリシーに関し検討する旨回答した（3月27日）。
- ・OM賞と茗原助成の選考委員を選定した。3月13日
- ・中辻創智社への選考委員の推薦を行った。3月13日
- ・国立自然博物館の設立請願書への動物学会写真資料の使用許可を出した（3月13日）
- ・【動物学会名古屋大会】 動物学ひろば名古屋市東山動物園職員の一般演題聴講について役員で審議し、認めることとした（3月16日）
- ・動物学会本部企画シンポジウムについて役員で相談し、シンポジウム1件を応募した。（3月31日）
- ・株式会社ナリシゲ様へお礼とご挨拶に伺った。（4月25日）
- ・6月 吉田庶務幹事及び事務局と①代議員制度の導入、②動物学会大会開催地および150周年記念について打ち合わせを行った。

- ・6月1日 近畿支部長に2028年の動物学会大会開催を近畿支部で引き受けていただけないか問い合わせ、後にご快諾の返事をいただいた。

2025年1-6月 中国四国支部活動報告

中国四国支部 支部長 植木龍也

A. 支部の活動

(1) 第76回支部大会（岡山大会）を開催した（中国四国植物学会、日本生態学会中国四国地区会と共同で中国四国地区生物系三学会合同大会として開催した）。

日時：2025年5月17日（土）、18日（日）

会場：愛媛大学城北キャンパス

参加者数：51名（動物学会員）、153名（全体）

実施内容：

(a) 支部役員会

(b) 一般発表：ポスター15演題、口頭19演題

(c) 高校生発表（動物学分野）：16演題（総演題数48件、総参加者数179名）

(d) 公開シンポジウム「生命が辿った5億年：動物と植物の進化過程の解明をめざして」：3演題（公開シンポジウム参加者数200名）

(e) 総会

なお若手優秀発表賞として16演題から以下の2名を選び、総会で表彰した。

・矢野竜成 会員（広島大・院・統合生命）

「一次纖毛におけるNPY受容体(1R,5R)の二量体形成・機能解析」

・津村晴仁 会員（山口大・院・創成科学）

「アカタテハ幼虫から脱出した*Microgaster subcompleta*の越冬能について」

また2026年5月に開催する予定の支部大会の準備状況について鳥取県委員の椋田崇生会員から説明を受けた。

(2) 中国四国地区生物系三学会合同大会の今後の運営方針について中国四国植物学会、日本生態学会中国四国地区会と話し合いを行った。

B. 各県の活動

※前回2024年7-12月期の報告に含めなかった活動も併せて報告する

(1) 愛媛県

名称：愛媛県例会

日時：2024年12月15日 13:00～15:00

場所：愛媛大学理学部

内容：研究発表（口頭発表5題）

参加者：約 30 名

(2) 岡山県

名称：2024 年度日本動物学会中国四国支部会岡山県例会

岡山大学 次世代研究拠点事業：「哺乳類の行動適応を普遍的にデザインする脳機能」

研究拠点の創出 岡山大学-理化学研究所・交流セミナー

日時：2025 年 3 月 14 日（金）13：00～17：30

場所：岡山大学津島キャンパス理学部 2 号館 4F 9 講義室

内容：講演 8 演題

参加者：23 名

(3) 広島県

名称：令和 6 年度広島県例会

日時：2025 年 3 月 7 日 13:00 ～ 16:00

場所：広島大学理学部大会議室

内容：対面式のポスター発表 35 演題（18 題：大学院生、12 題：学部生）

参加者：約 60 名

(4) 高知県

名称：土佐生物学会

日時：2024 年 12 月 21 日 9：25～16：30

場所：高知大学理工学部

内容：研究発表（口頭発表 16 題、ポスター 10 題）

参加者：一般 26 名、学生 45 名、高校生 7 名、計 78 名

広報委員会活動報告（2025年1月～6月）

報告者 広報担当理事 浮穴和義

2025年6月1日作成

- ・学会ホームページ関連の更新・維持管理を行った。
 1. 各委員の持ち回り（月当番）により、会員へのダイレクトメール情報に基づき、公募・研究助成情報・研究集会情報を学会ホームページに掲載した。
 2. 会員へのダイレクトメール情報に基づき、月1回のメールマガジン配信を会員向けに行った。
 3. 2025年度日本動物学会賞、奨励賞、成茂動物科学振興賞、動物学教育賞、女性研究者奨励OM賞、川口賞、茗原眞路子研究奨励助成の募集情報を学会ホームページに掲載した。
 4. 2023年度の茗原眞路子研究奨励助成の報告書1件を掲載した。
 5. 2024年度の川口賞の報告書1件を掲載した。
 6. 書評を2件掲載した。
 7. 日本動物学会関東支部第77回大会のおしらせ（第二報）を掲載した。

広報委員会メンバー

委員長 浮穴 和義

委員

越川 滋行 北海道支部

松岡 有樹 東北支部

鈴木 郁夫 関東支部

岡田 令子 中部支部

中城 光琴 近畿支部

吉井 大志 中国四国支部

齋藤 大介 九州支部

日本動物学会九州支部活動報告

期間：2025年1月1日～2025年6月30日

作成者：岡田二郎（日本動物学会九州支部長）

八木光晴（日本動物学会九州支部庶務）

1) 四学会合同沖縄例会

（沖縄公開シンポジウム）

開催日：2025年5月17日（土）

会場：沖縄大学 本館 同窓会館・玄関ホール

公開シンポジウム 15:40～17:40

「沖縄島の中南部の自然の過去・現在・これから」

コンビナー：富永 篤（琉球大・教育）

S01：沖縄島中南部の洞くつ性小型コウモリの現状

田村常雄（NPO 法人沖縄鍾乳洞協会）

S02：沖縄中南部の節足動物の特徴

佐々木健志（琉球大・風樹館）

S03：存亡の危機に立つ“世界でこの島だけのかたつむりたち”

久保弘文（琉球大・風樹館）

S04：湧水に育まれる溪流型アカボシタツナミソウ — やんばるとは異なる進化の舞台

傳田哲郎（琉球大・理学部）

S05：沖縄南部に残存する両生類・爬虫類の地域個体群について

城間大輝（琉球大・院理工）・富永篤（琉球大・教育）

S06：地域の生物多様性増進について

澤志泰正（環境省沖縄奄美自然環境事務所）

総合討論：沖縄島中南部の自然環境や野生動植物の保全のために我々に何ができるのか？

2) 第 77 回日本動物学会九州支部大会

(第 77 回日本動物学会九州支部大会を、九州沖縄植物学会および日本生態学会九州地区会と共催し、三学会合同鹿児島大会 2025 として開催)

日時：2025年5月24日（土）～ 25日（日）

会場：鹿児島大学郡元キャンパス理学部 2号館

内容：

一般講演：ポスター発表（一般発表：25 演題、高校生発表：12 演題）

口頭発表（一般発表：33 演題）

特別講演：1 演題

参加者：154 名

3) 日本動物学会九州支部委員会

日時：2025年5月16日(金) 10:30～12:00

場所：オンライン開催 (ZOOM)

4) 日本動物学会九州支部総会

日時：2025年5月24日(土) 15:10～15:40

場所：鹿児島大学大学郡元キャンパス理学部 2号館 D 会場

大会引継ぎ担当理事活動報告：2025年1月-6月までの活動報告

岡田 二郎

1. 第95回長崎大会（2024年）の資料を第96回名古屋大会（2025年）に引き継
いだ。

寄付担当理事および寄付委員会活動報告（2025年1月～6月）

報告者 理事 山脇 兆史

2025年5月 26日作成

2024年5月

- ・5月26日時点の2024年度寄付件数は52件、360,015円となっている。そのうち13件は中部支部によるクラウドファンディング活動による寄付である。2025年度の会費請求が6月に行われる際に、会員に対して寄付を依頼する予定であり、さらなる件数の増加が見込まれる。
- ・2025年度9月に開催する名古屋大会において実施予定の中部支部クラウドファンディングについて、中部支部の関係者とメールにて準備状況を確認した。大会会期中に「どうぶつがく広場」にて寄付を募るブースを設ける形式で準備を進めている。
- ・2025年度の事業計画書および2024年度下期の活動報告書を作成し、寄付委員会への報告を経て、5月27日（火）に事務局に提出した。

以上

将来計画委員会活動報告（2025年1月～6月）

1. 第96回日本動物学会名古屋大会にて開催する第2回目若手交流会の趣旨、実施方法等についての打ち合わせをメールで行った。第2回若手交流会はランチョン形式で実施する初の試みであり、学生主体で会を進めるための準備、参加者を増やすための呼びかけなどについて意見が出された。
2. 第96回日本動物学会名古屋大会にて開催する第25回男女共同参画委員会懇談会の打ち合わせをメールで行った。名古屋大会では、ランチョンセミナー1日目が若手交流会、ランチョンセミナー2日目が男女共同参画委員会懇談会となることから、若手交流会と懇談会とがうまく連携できるようにすることができるよう話し合われた。

会計担当活動報告（2025年1月～2025年6月）

報告者 理事 佐倉 緑

2025年5月29日作成

2024年12月（前回報告以降）

- 2024年度のZS著作権使用料等分配金額について、明細を確認した。
- 2024年10～11月分の収支計算書を確認した。
- 次期動物愛護管理法改正に関する要望書について本部役員で議論した。

2025年1月

- 2024年12月分の収支計算書を確認した。

2025年2月

- 山田科学進行財団研究援助の学会推薦審査を行った。
- 2025年1月分の収支計算書を確認した。
- 学会賞等選考委員の交代について、本部役員と賞担当理事で議論した。

2025年3月

- 名古屋大会に関する議論を本部役員の間で行った。
- 中辻創智社研究助成選考委員の推薦について、本部役員で議論した。
- 2025年2月分の収支計算書を確認した。
- 名古屋大会の本部企画シンポジウムについて、本部役員で議論した。

2025年4月

- 名古屋大会の経理について、本部役員で議論した。
- 2025年3月分の収支計算書を確認した。

2025年5月

- 育志賞の学会推薦審査を行った。
- iGEM2025参加チームへの協賛について、本部役員で議論した。
- 茗原助成の応募資格について、本部役員と賞担当理事で議論した。
- 2025年4月分の収支計算書を確認した。

以上

(2025年1月～6月 庶務報告)

吉田 薫

1. 次期名古屋大会の開催に関して、実行委員会のメール議論を適宜把握した。
2. 前回理事会の議事録作成・および、次回理事会の議事の準備を行った。
3. メール審議を行った（国際会議発表支援川口賞等）
4. 名古屋大会の本部企画シンポジウムの議論に本部役員として参加した。
5. その他、会長、副会長、会計、各委員会の職務を補佐した。

公益社団法人日本動物学会 2025 年度事業計画

1 定時社員総会の開催

2025 年 9 月 4 日（木）ポートメッセなごや 交流センター

主な議案 ①2024 年度公益社団法人日本動物学会事業報告

②2024 年度決算（貸借対照表、損益計算書、及び財産目録）

2 学術集会の開催

2025 年 9 月 4 日（木）から 6 日（土）まで、第 96 回日本動物学会名古屋大会を、ポートメッセなごや（愛知県名古屋市）で開催する。ポスター、シンポジウム、賞等授与式、受賞者講演を行う。

（公益 1）

3 学術誌の刊行

Zoological Science (ZS) の刊行（42 卷 4 号～第 43 卷 3 号）。年 6 回発行、700 頁。

ZS の編集は、編集委員会委員が行う。編集委員会は 1 回開催。

OA ジャーナル Zoological Letters (ZL) の刊行。年間 30 論文前後の出版。

（公益 1）

4 ニュースの発行と広報活動の促進

web サイト及びメーリングリストを利用して、ニュースを月 1 回発行する。大学等研究機関による職員募集、科学者によるセミナー、シンポジウムの開催通知、動物学関連書籍の書評などを掲載する。

5 ZooDiversity Web (ZDW) の構築

- ・Zoological Science 出版論文を隨時 ZDW にアップする。
- ・Zoological Letters の文献情報を隨時アップする。
- ・Zoological Science、動物学雑誌、動物学彙報の掲載論文を対象とする動物種のデータベースで未収録のファイルを点検し掲載に向けた作業を行う。
- ・表示の誤りなど不具合の点検を行い、改修をダイナックスに依頼する。

（公益 1）

6 研究の表彰

・日本動物学会賞

会員を対象とし、動物学研究に新たな知見をもたらした研究者に授与する。毎年 1～2 件程度を学会賞等選考委員会で選考し、理事会の審議により決定する。

（公益 1）

・日本動物学会奨励賞

会員を対象とし、今後の動物学研究を推進することが期待される若手研究者に授与する。毎年2~3件程度を学会賞等選考委員会で選考し、理事会の審議により決定する。

(公益1)

・Zoological Science Award

2025年に出版されたZS掲載論文を、各分野において、優秀でインパクトのある論文の著者に授与する。本学会の会員歴、国籍などは問わない。ZS編集委員会で選考し、理事会の審議により決定する。

(公益1)

・日本動物学会女性研究者奨励OM賞

安定した身分で研究を続けることが困難であるが、強い意志と高い志を持って研究に意欲的に取り組もうとする女性動物科学者を対象とする。本学会の会員歴、国籍などは問わない。OM賞選考委員会で選考し、理事会の審議により決定する。

(公益1)

・成茂動物科学振興賞

動物学の全分野でユニークな研究を展開する会員に授与する。学会賞等選考委員会で選考し、理事会の審議により決定する。

(公益1)

・国際会議発表支援川口賞

2026年4月-2027年3月までに開催される海外国際会議で発表する若手研究者を対象として授与する。学会賞等選考委員会で選考し、理事会の審議により決定する。

(公益1)

・動物学教育賞

活発な啓蒙活動等により動物学の社会への普及に著しく貢献した個人または団体を対象とする。本学会の会員歴、国籍などは問わない。学会賞等選考委員会で選考し、理事会の審議により決定する。

(公益1)

7 研究の助成

・茗原眞路子研究奨励助成

基礎生物学（動物学）の優れた研究および当学会における学術活動に従事しているが、当助成金の他に十分な研究費を得ることの困難な者を対象とする。日本の大学、その他研究機関に在職し、主たる仕事として研究活動に従事している研究者（教授、准教授、講師、助教、研究員等）を対象とし、大学

院生等は対象外) 個人を助成する。毎年3件程度を茗原眞路子研究奨励助成金選考委員会で選考し、理事会の審議により決定する。

(公益1)

8 理事および委員会活動

広報委員会

- 1) 学会ホームページの更新・維持を行う。
- 2) 学会ホームページによる学会内外への広報活動を行う。
- 3) メールマガジンを発行し、会員へダイレクトメール配信を行う。
- 4) その他、動物学会の広報に必要な活動を行う。

出版・図書委員会

これまで継続してきた、Springer Series “Diversity and Commonality in Animals” の継続刊行企画 (Vol 4. Animal Behaviors (仮題) , Vol 5. Endocrine Systems in Animals (仮題)) については、企画立案から10年以上が経過しているため再考し、新たな企画を立てるほか、学会員に企画を募集する計画である。

将来計画委員会

1. 将来計画委員会とキャリアパス小委員会の体制と活動内容を検討する。
2. 第96回日本動物学会名古屋大会にて第2回目となる若手交流会を実施する。
3. 第96回日本動物学会名古屋大会にて実施される第25回男女共同参画委員会懇談会に協力する。

国際交流委員会

- ・定期的に国際交流委員会を開催する。
- ・主としてオンラインでの開催。
- ・大会時のみ、会場にて対面で開催。

- ・今年度は名古屋大会での国際シンポジウム企画提案（下記）があり、委員会で採択されたため、その開催に向けて協力していく。

- ・来年度の北海道大会での国際シンポジウム提案も随時募っていく。
- ・国際交流セミナーについても提案を募る。

【名古屋大会での国際シンポジウム企画】

九州支部委員の山崎博史先生（九州大学）より会員からのシンポ提案の報告。

琉球大学の池田先生より企画提案があり、国際交流委員会の全会一致で採択が可決された。

- ・シンポタイトル：Reconsideration of smartness in animals: its similarity and divergence

- ・オーガナイザー：池田 譲（琉球大学）

- ・概要

Beside human, we know many examples of smart animals such as chimpanzees and crows that exhibit advanced learning abilities both in nature and in laboratory. One of shared features of these smart animals is large brain and sophisticated senses. Today such examples for smartness are getting expansion to other phylum even to invertebrates. Coelopid cephalopods (octopus, cuttlefish and squid) are such an exceptional invertebrate facilitated with megalobrain and lens eyes, performing extraordinary intelligence and unique behavior such seen in dynamic camouflage. Yes, they are smarter than we usually imagine. So, are cephalopods are human-like animals? Or, are they another mammals or birds? When we think about smartness and cognition of animals, we should look at their evolutionary history and life span that determine the present form of each species. In this symposium, we will focus on cephalopods as smart animal, and compare them with other animals including primates, birds and arthropods, by which we try to reconsider what smartness is among animals.

- ・予定講演者

基調講演者: Alex Schnell (National Geographic/University of Cambridge)

講演者：高野 裕二（人間環境大学）

　　山崎 由美子（新潟医療福祉大学）

　　森山 徹（信州大学）

　　川島 董（琉球大学）

- ・想定参加人数：100–150 名

- ・希望時間枠：2 時間半（大会 2 日目午後[17:00–19:30]）

【国際交流セミナー】

こちらは特に提案がなかったため、開催の企画は現時点では無し。

積極的な企画提案が無い限りは（委員や会員の大きな負担となるため）無理に開催しないことを委員の間で了承した。

男女共同参画委員会

- 1) 第 96 回日本動物学会名古屋大会において、第 25 回男女共同参画懇談会「ワーク・ライフ・バランスを考える～機嫌よく研究に取り組みたい！～」を、キャリアパス小委員会と合同企画開催する。同懇談会は年次大会においてランチョンセミナーとして毎年開催し、性別や分野、また職位や学生を問わず解決したい問題、研究室以外の人に聞いてみたい話題について語り合うことで、現在私たちが置かれている状況を把握し、課題に向けて新たな解決策を探ることが期待される。

- 2) 男女共同参画学協会連絡会正式加盟学会として、年3回の運営委員会の出席、2025年度連絡会シンポジウムでの発表を行う。

教育委員会

- ①各支部の支部大会を中心に高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動を実施する。
②本大会および支部大会での高校生研究発表における著作権侵害や剽窃などの懸念事項に対して、大会準備委員会の高校生発表担当者と密に連携をとり募集要項に注意事項を記載し喚起する。

IT委員会

- 1) 年次大会用の参加・演題登録システム及び演題検索システムの整備を行う。
- 2) 動物学会webサイト及び年次大会webサイトのシステム管理を行う。
- 3) 第96回名古屋大会のシステム運用について、業者や本部事務局と連携をしながら大会準備委員会に 対して助言・技術提供を行う。
- 4) 第97回札幌大会のシステムについて、整備を業者・大会準備委員会・本部事務局と連携をしながら 行うとともに、大会準備委員会に対して運用についての助言・技術提供を行う。

ZDW委員会

- 1) Zoological Science出版論文を隨時ZDWにアップする。
- 2) Zoological Lettersの文献情報を隨時アップする。
- 3) Zoological Science、動物学雑誌、動物学彙報の掲載論文を対象とする動物種のデータベースで未収録のファイルを点検し掲載に向けた作業を行う。
- 4) 表示の誤りなど不具合の点検を行い、改修をダイナックスに依頼する。

寄付委員会

- 1) 税控除団体認定のための寄付件数の安定確保の仕組みの点検と改善
- 2) 寄付サイト(Syncable)の運用の点検と改善
- 3) クラウドファンディングの実施と評価(上記1と関連して中部支部活動と連動)

以上の事項について、事務局、関係する委員会、担当理事と連携して進める。

大会引継ぎ担当

第96回名古屋大会から第97回札幌大会に資料等を引継ぐ。

9 支部活動

北海道支部

1) 第 70 回支部大会・総会の開催

2026 年 3 月札樽地区において、一般会員・学生発表、特別講演、高校特別発表、総会を実施する。

2) 支部講演会および支部主催公開シンポジウムを適宜開催する。

3) 支部委員会を適宜開催する。

4) 必要に応じて、個々の教員の以下の活動についてサポートする。

SSH 採択高校での研究指導や研究発表会参加など。

5) 第 97 回日本動物学会札幌大会（2026 年 9 月）の準備

会期 2026 年 9 月 2 日（水：理事会・委員会）、3 日（木）～5 日（土）本大会

総会・懇親会を 2 日目に実施予定。

会場：北海道大学高等教育推進機構（札幌市北区北 17 条西 8 丁目）

主会場の内訳は、総会／受賞者講演会場 1（収容人数 450 名）、シンポジウム／一般口演会場 10（収容人数 93～324 名）、高校生ポスター用会場 3（床面積延べ 320 mm²）、動物学ひろば会場 1（床面積 82mm²）、機器展示室 1、休憩室 1 を予定

東北支部

・2025 年度東北支部大会（一般口頭発表および高校生による科学研究発表）と東北支部総会を 7 月 26 日（土）～7 月 27 日（日）に東北大学青葉山キャンパス青葉山コモンズ（宮城県仙台市）にて開催する。東北支部大会の実行委員長は出口竜作会員（宮城教育大学）。

・「親子で楽しむ動物学」は 7 月 26 日に高校生ポスター発表との同時開催を検討中。

関東支部

1) 支部主催公開講演会の実施

テーマ「動物をまねて作った驚きの新技術 -バイオミメティクスの世界-」

日時：2025 年 7 月 19 日（土）13:30～16:00

会場：東大理学部 2 号館講堂

プログラム

13:30-13:35 ご挨拶

13:35-14:15 荒川 和晴 先生（慶應義塾大学）

「1000 種のクモの解析に基づく高機能バイオマテリアル設計」

14:20-15:00 菊池 デイル 万次郎 先生（東京農業大学）

「飛行をめぐる冒険：鳥と流体力学の世界」

15:05-15:45 桑折 道済 先生（千葉大学）

「クジャクの発色に倣うメラニン系構造色材料の開発」

15:50-16:00 総合討論、閉会

日本動物学会関東支部企画委員

二階堂 雅人 委員

長谷部 孝 委員

大杉 美穂 委員

鈴木 郁夫 委員

中部支部

1) 令和7年度 日本動物学会中部支部大会を静岡大学で12月上旬に開催予定。

開催概要

日時：令和7年12月上旬

会場：静岡大学・理学部

(<https://www.sci.shizuoka.ac.jp/>)

参加費：未定

懇親会：未定

2) 中部支部主催による寄付募集活動を実施予定

動物の組織などのプレパラートを返礼品とした寄付募集活動「日本の『動物学』をご支援ください！」を第96回日本動物学会名古屋大会の一般公開行事内で実施予定

企画の内容：寄付委員、中部支部長が企画を担当。動物学ひろば内に支部ブースを設置し、そこで支部をはじめとする動物学会の活動紹介を行い、寄付サイト（QRコードを掲示）を通じた寄付を募る（寄付完了画面の提示により、返礼品をお渡しする予定）。

3) 第96回日本動物学会名古屋大会（令和7年9月）の準備

会期 令和7年9月3日（水：理事会・委員会）、4日（木：総会・懇親会）～6日（土）

総会・懇親会を大会初日、講演（シンポ・関連集会）を初日・2日目の午前、一般発表を2日目午後・3日目全日に、実施予定。

会場 ポートメッセなごや（名古屋市港区金城ふ頭にある名古屋市国際展示場）

<https://portmesse.com>

第二展示場をメイン会場に、交流センター会議室（合計7室）を講演会場として実施予定

現在、演題募集を〆切、プログラム集の作成を進めるとともに、一般公開行事の要旨集、当日マニュアルなどの準備を進めている。

近畿支部

(1) 2025年秋の高校生発表会

日時：2025年11月16日（日）

場所：大阪公立大学

世話人：後藤慎介 会員（大阪公立大学）

(2) 2026年春の公開講演会

日時：未定

場所：長浜バイオ大学

世話人：齋藤茂 会員（長浜バイオ大学）

中国四国支部

1)支部大会、役員会、総会

2026年5月に鳥取県で第77回支部大会を開催する（植物学会、生態学会と共同で生物系三学会合同大会として開催）。合わせて支部役員会、総会を開催する。

2)各県の活動予定（県例会等）

○愛媛県

名称：愛媛県例会

日時：2025年12月（予定）

場所：愛媛大学理学部

○岡山県

名称：岡山県例会

日時：2025年12月（予定）

○山口県

名称：山口大学理学部サイエンスワールド2025（中国四国支部後援予定）

日時：2025年10月下旬（予定）

場所：山口大学理学部・山口大学第2学生食堂「きらら」

○広島県

名称：広島県例会

日時：2026年3月上旬（予定）

場所：広島大学理学部

ポスター形式で実施の予定。

○高知県

名称：第117回土佐生物学会

日時：2025年12月20日（予定）

場所：高知大学理工学部

九州支部

1) 支部大会について

2025 年度日本動物学会九州支部・九州沖縄植物学会・日本生態学会九州地区会 三学会合同福岡大会

日時：2026 年 5 月 23 日（土）～24 日（日）

場所：福岡大学

大会委員長：立田晴記（九州大学）

2) その他の事業活動（出版事業、公開シンポジウム等）

2025 年 8 月 28～29 日 第 10 回動物学談話会（九重共同研修所）

2025 年 11 月 9 日 宮崎例会

2025 年 11 月 15 日 熊本例会

2025 年 11 月 15 日 佐賀例会

2025 年 12 月 6 日 鹿児島例会

2025 年 12 月 13 日 長崎例会

2025 年 12 月 13 日 大分例会

2025 年 12 月 13 日 福岡例会

日程未定 沖縄例会

日程未定 熊本・公開実習

以上

2025.6.3 作成

公益社団法人日本動物学会 収支予算書(損益計算ベース)

2025年7月1日～2026年6月30日

(単位:円)

科 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	差 額	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1.経常増減の部				
(1)経常収益				
基本財産運用益	[5,000]	[5,000]	[0]	
基本財産受取利息	5,000	5,000	0	
特定資産運用益	[20,000]	[20,000]	[0]	
特定資産受取利息	20,000	20,000	0	
受取入会金	[25,000]	[25,000]	[0]	
受取入会金	25,000	25,000	0	
受取会費	[15,838,000]	[15,929,600]	[△ 91,600]	
通常会員受取会費	13,500,000	13,500,000	0	1. 会費収入について
団体会員受取会費	920,000	1,000,000	△ 80,000	
賛助会員受取会費	0	0	0	
支部会員受取会費	(1,418,000)	(1,429,600)	(△ 11,600)	
北海道支部	150,000	150,000	0	2. 支部活動費について
東北支部	150,000	150,000	0	
関東支部	488,000	480,800	7,200	
中部支部	157,600	176,000	△ 18,400	
近畿支部	158,400	172,800	△ 14,400	
中国四国支部	164,000	150,000	14,000	
九州支部	150,000	150,000	0	
事業収益	[26,250,000]	[21,465,160]	[4,784,840]	
学術誌発行事業収益	(12,890,000)	(12,400,000)	(490,000)	
学術誌予約購読料収益	10,890,000	10,400,000	490,000	3. Zoological Scienceの購読料収入について
学術誌掲載料収益	1,300,000	1,300,000	0	
別刷代等収益	700,000	700,000	0	
学術集会参加費等収益	(13,360,000)	(9,065,160)	(4,294,840)	4. 名古屋大会の収支について
支部活動費収益	(0)	(0)	(0)	
受取補助金等	[0]	[800,000]	[△ 800,000]	
国際情報発信強化(B)	0	0	0	
大会公開促進費(B)	0	800,000	△ 800,000	
受取寄付金	[2,800,000]	[2,800,000]	[0]	
受取寄付金	2,800,000	2,800,000	0	
雑収益	[300,000]	[300,000]	[0]	
受取利息	0	0	0	
著作権収益	0	0	0	
雑収益	300,000	300,000	0	
経常収益計	45,238,000	41,344,760	3,893,240	
(2)経常費用				
事業費				
学術集会の開催	[38,163,002]	[34,299,762]	[3,863,240]	
会場費	(13,360,000)	(9,065,160)	(4,294,840)	4. 名古屋大会の収支について
会場設定費用等	2,800,000	610,506	2,189,494	
印刷費	2,180,000	214,054	1,965,946	
通信運搬費	1,400,000	50,000	1,350,000	
謝金	150,000	150,000	0	
消耗品費	820,000	1,300,000	△ 480,000	
雑費	1,850,000	200,000	1,650,000	
懇親会費	200,000	2,410,000	△ 2,210,000	
3,960,000	3,960,000	4,130,600	△ 170,600	
英文学術誌の刊行	(8,630,000)	(8,630,000)	(0)	
Zoological Science 印刷出版費	3,000,000	3,000,000	0	
別刷印刷費	60,000	60,000	0	
通信運搬費	70,000	70,000	0	
編集費	4,500,000	4,500,000	0	
Zoological Letters 経費	1,000,000	1,000,000	0	
国際情報発信強化(B)	(0)	(0)	0	
大会公開促進費(B)	(0)	(800,000)	△ 800,000	
支部活動費	(1,418,000)	(1,429,600)	(△ 11,600)	
研究の奨励及び研究業績の表彰	(3,750,000)	(3,750,000)	(0)	
動物学会賞	200,000	200,000	0	
奨励賞	100,000	100,000	0	
論文賞	300,000	300,000	0	
日本動物学会OM賞	1,000,000	1,000,000	0	
川口基金奨励金	300,000	300,000	0	
教育賞	50,000	50,000	0	
若原眞路子研究奨励助成金	1,500,000	1,500,000	0	
高校生研究発表奨励	300,000	300,000	0	
関係学術団体との連絡・協力	(170,000)	(120,000)	(50,000)	
委員会活動費	(280,000)	(250,000)	(30,000)	
ZDW委員会	250,000	250,000	0	
男女共同参画委員会	10,000	0	10,000	
将来計画委員会	10,000	0	10,000	
歴史資料保存委員会	10,000	0	10,000	
支払寄付金	(200,000)	(200,000)	0	
国際生物学オリンピック・生物学賞	200,000	200,000	0	
給与手当	(4,400,000)	(4,400,000)	0	
法定福利費	(900,000)	(900,000)	0	

公益社団法人日本動物学会 収支予算書(損益計算ベース)

2025年7月1日～2026年6月30日

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	差額	備考
退職給付費用	(200,002)	(200,002)	0	
会議費	(10,000)	(10,000)	0	
旅費交通費	(330,000)	(330,000)	0	
電話料	(105,000)	(105,000)	0	
消耗品費	(550,000)	(550,000)	0	
データベース管理費	(800,000)	(600,000)	200,000	
光熱水費	(110,000)	(110,000)	0	
謝金	(1,350,000)	(1,350,000)	0	
賃借料	(700,000)	(700,000)	0	
雑費	(900,000)	(800,000)	100,000	
管理費	[6,315,000]	[6,065,000]	[250,000]	
給与手当	1,100,000	1,100,000	0	
法定福利費	300,000	300,000	0	
退職給付費用	50,000	50,000	0	
会議費	10,000	10,000	0	
旅費交通費	200,000	200,000	0	
電話料	105,000	105,000	0	
通信運搬費	700,000	700,000	0	
消耗品費	450,000	450,000	0	
データベース管理費	400,000	300,000	100,000	
光熱水費	150,000	150,000	0	
謝金	1,450,000	1,450,000	0	
賃借料	700,000	700,000	0	
租税公課	400,000	0	400,000	
雑費	300,000	550,000	△ 250,000	5. 消費税について
経常費用計	44,478,002	40,364,762	4,113,240	
当期経常増減額	759,998	979,998	△ 220,000	
1. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常増減額	0	0	0	
一般正味財産期首残高	16,219,833	15,239,835	979,998	
一般正味財産期末残高	16,979,831	16,219,833	759,998	
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	[0]	[0]	[0]	
受取補助金	0	0	0	
受取寄付金	[0]	[0]	[0]	
受取OM寄附金	0	0	0	
一般財産へ振替	[2,800,000]	[2,800,000]	[0]	
OM	1,000,000	1,000,000	0	
茗原基金	1,500,000	1,500,000	0	
一般財産へ振替	300,000	300,000	0	
当期指定正味財産増減額	△ 2,800,000	△ 2,800,000	0	
指定正味財産期首残高	39,143,227	41,943,227	△ 2,800,000	
指定正味財産期末残高	36,343,227	39,143,227	△ 2,800,000	
III 正味財産期末残高	53,323,058	58,498,929	△ 5,175,871	

2025年7月1日～2026年6月30日 収支予算(損益計算ベース) 内訳表

	公益事業	法人会計	内部取引控除	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	[5,000]	[0]		[5,000]
基本財産受取利息	5,000			5,000
特定資産運用益	[20,000]	[0]		[20,000]
特定資産受取利息	20,000			20,000
受取入会金	[12,500]	[12,500]		[25,000]
受取入会金	12,500	12,500		25,000
受取会費	[7,919,000]	[7,919,000]		[15,838,000]
通常会員受取会費	6,750,000	6,750,000		13,500,000
団体会員受取会費	460,000	460,000		920,000
賛助会員受取会費	0	0		0
支部会員受取会費	(709,000)	(709,000)		(1,418,000)
北海道支部	75,000	75,000		150,000
東北支部	75,000	75,000		150,000
関東支部	244,000	244,000		488,000
中部支部	78,800	78,800		157,600
近畿支部	79,200	79,200		158,400
中国四国支部	82,000	82,000		164,000
九州支部	75,000	75,000		150,000
事業収益	[26,250,000]	[0]		[26,250,000]
学術誌発行事業収益	(12,890,000)	(0)		(12,890,000)
学術誌予約購読料収益	10,890,000			10,890,000
学術誌掲載料収益	1,300,000			1,300,000
別刷代収益	700,000			700,000
学術集会参加費等収益	(13,360,000)	()		13,360,000
受取補助金等	[0]	[0]		[0]
大会公開促進費(B)	0			0
受取寄付金	[2,800,000]	[0]		[2,800,000]
受取寄付金	2,800,000	0		2,800,000
雑収益	[300,000]	[0]		[300,000]
雑収益	300,000			300,000
経常収益計	37,306,500	7,931,500		45,238,000
(2) 経常費用				
事業費				
学術集会の開催	[38,163,002]	[0]		[38,163,002]
学術集会の開催	(13,360,000)	(0)		(13,360,000)
会場費	2,800,000			2,800,000
会場設定費用等	2,180,000			2,180,000
印刷費	1,400,000			1,400,000
通信運搬費	150,000			150,000
謝金	820,000			820,000
消耗品	1,850,000			1,850,000
雑費	200,000			200,000
懇親会費	3,960,000			3,960,000
英文学術誌の刊行	(8,630,000)	(0)		(8,630,000)
Zoological Science 印刷出版費	3,000,000			3,000,000
別刷印刷費	60,000			60,000
通信運搬費	70,000			70,000
編集費	4,500,000			4,500,000
Zoological Letters 英文校閲費	1,000,000			1,000,000
大会公開促進費(B)	(0)	(0)		(0)
支部活動費	(1,418,000)	(0)		(1,418,000)
研究の奨励及び研究業績の表彰	(3,750,000)	(0)		(3,750,000)
動物学会賞	200,000			200,000
奨励賞	100,000			100,000
論文賞	300,000			300,000
日本動物学会OM賞	1,000,000			1,000,000
川口基金奨励金	300,000			300,000
教育賞	50,000			50,000
茗原眞路子研究奨励助成金	1,500,000			1,500,000
高校生研究発表奨励	300,000			300,000
関係学術団体との連絡・協力	(170,000)	(0)		(170,000)
委員会活動費	(280,000)	(0)		(280,000)
ZDW委員会	250,000			250,000

2025年7月1日～2026年6月30日 収支予算(損益計算ベース) 内訳表

	公益事業	法人会計	内部取引控除	合計
男女共同参画委員会	10,000			10,000
将来計画委員会	10,000			10,000
歴史資料保存委員会	10,000			10,000
支払寄付金	(200,000)	(0)	(200,000)	200,000
国際生物学オリンピック・生物学賞	200,000			200,000
給与手当	(4,400,000)	(0)		4,400,000
法定福利費	(900,000)	(0)		900,000
退職給付費用	(200,002)	(0)		200,002
会議費	(10,000)	(0)		10,000
旅費交通費	(330,000)	(0)		330,000
通信運搬費(電話料)	(105,000)	(0)		105,000
消耗品費	(550,000)	(0)		550,000
データベース管理費	(800,000)	(0)		800,000
光熱水費	(110,000)	(0)		110,000
謝金	(1,350,000)	(0)		1,350,000
賃借料	(700,000)	(0)		700,000
雜費	(900,000)	(0)		900,000
管理費		[6,315,000]		[6,315,000]
給与手当		1,100,000		1,100,000
法定福利費		300,000		300,000
退職給付費用		50,000		50,000
会議費		10,000		10,000
旅費交通費		200,000		200,000
電話料		105,000		105,000
通信運搬費		700,000		700,000
消耗品費		450,000		450,000
データベース管理費		400,000		400,000
光熱水費		150,000		150,000
謝金		1,450,000		1,450,000
賃借料		700,000		700,000
租税公課		400,000		400,000
雜費		300,000		300,000
経常費用計	38,163,002	6,315,000		44,478,002
当期経常増減額	△ 856,502	1,616,500		759,998
2.経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0		0
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0		0
当期経常外増減額	0	0		0
一般正味財産期首残高	△ 12,924,068	29,143,901		16,219,833
一般正味財産期末残高	△ 13,780,570	30,760,401		16,979,831
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	[0]	[0]		[0]
受取補助金	0	0		0
受取寄付金	[0]	[0]		[0]
受取OM寄附金	0	0		0
一般財産へ振替	[2,800,000]	[0]		[2,800,000]
OM	1,000,000	0		1,000,000
茗原基金	1,500,000			1,500,000
一般財産へ振替	300,000	0		300,000
当期指定正味財産増減額	△ 2,800,000	0		△ 2,800,000
指定正味財産期首残高	39,143,227	0		39,143,227
指定正味財産期末残高	36,343,227	0		36,343,227
III 正味財産期末残高	22,562,657	30,760,401		53,323,058

公益社団法人日本動物学会 資金調達及び設備投資の見込み

2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日

1 資金調達の見込みについて

なし

2 設備投資の見込みについて

なし

茗原眞路子研究奨励助成金

HOME > 茗原眞路子研究奨励助成金

茗原眞路子研究奨励助成金

「茗原眞路子研究奨励助成金」は、動物学会会員で2015年5月に急逝された茗原眞路子会員のご遺志により頂きましたご寄付により設立されたものです。茗原会員の生前のご意向を活かすべく、基礎生物学（動物学）の研究に従事し、良い基礎研究をされているが研究費に必ずしも恵まれない方への研究費の支援を行うことを目的として、2020年より年間3名の研究者に研究奨励金50万円を贈呈しております。

重要な基礎生物学的な研究を計画・実施されている研究者で、応募する年度（通常の会計年度）に外部資金を得ていない方を対象とします。本学会会員に限らず、広く公募いたします。

代表者・分担者として何の